

# 「レバレッジ比率開示要件の見直し」に関する市中協議文書の公表について

2019年1月  
金融庁／日本銀行

\* 当資料は、バーゼル銀行監督委員会(バーゼル委)が公表した市中協議文書の内容の理解促進の一助として、作成されたものです。市中協議文書の内容については必ず原文を当たって御確認下さい。本資料の無断転載・引用は固くお断り致します。



# 目次

1. 背景・経緯
2. 市中協議文書で提案されている内容
3. 今後の予定



## 1. 背景・経緯 — 現行規制

- バーゼルⅢにおけるレバレッジ比率規制は、常に満たさなければならない3%の最低基準及び開示義務に加え、グローバルなシステム上重要な銀行に対するバッファの上乗せ義務で構成されている。
- バーゼルⅢの現行開示要件上、銀行は四半期末ごとにレバレッジ比率を報告しなければならない。ただし、監督当局によっては平均値の報告を求めている場合もある(例:日次や月次のエクスポージャー額の平均値を利用)。



## 1. 背景・経緯 — バーゼル委の関心・懸念

- 短期金融市場やデリバティブ市場において四半期末にかけて取引量のボラティリティの高まりが頻繁に見られることを背景に、バーゼル委は、銀行による潜在的な規制の裁定行動に関心をもっている。
- 特に、そうしたボラティリティの高まりの一因として、報告・開示するレバレッジ比率の引き上げを目的として、四半期末日前後に主要な金融商品市場での取引量を一時的に減少させるウィンドウ・ドレッシング行動について懸念している。
- こうした中、バーゼル委は潜在的なウィンドウ・ドレッシング行動の懸念に対処するために、複数の政策オプションを検討してきた。



## 1. 背景・経緯 — バーゼル委の対処

- 2018年10月18日、バーゼル委はこうしたウィンドウ・ドレッシング行動を牽制するため、「Statement on leverage ratio window-dressing behaviour」を公表。
- その中で、銀行による潜在的なウィンドウ・ドレッシング行動を注意深くモニタリングするとともに、第1の柱(最低資本基準)及び第3の柱(開示)を含む追加的な措置を検討する予定である旨を表明。
- 今般、バーゼル委は、見直しの可能性のある(potential revisions)開示要件について市中協議文書を公表し、意見を求めることとした。



## 2. 市中協議文書で提案されている内容 見直しの可能性のある (potential revisions) 開示要件

- バーゼル委は、現行の第3の柱で求められている四半期末残の開示に加えて、追加的な開示の可能性として、ウィンドウ・ドレッシング行動に利用されるおそれの強い以下の3科目について、日次平残での計算値の開示を求めることを提案。
  - ① (レバレッジ比率規制パラグラフ51(i)の調整を反映した) 会計上認識されるグロスの証券金融取引(SFT)資産<sup>1</sup>
  - ② デリバティブ・エクスポージャーの再構築コスト
  - ③ 中銀預金(オンバランス部分)
- 開示要件を見直す場合には、遅くとも2022年1月1日までには導入することを提案。

<sup>1</sup> SFT(securities financing transaction)とは、レポ取引、リバース・レポ取引、証券賃借、マージン・レンディング取引等、取引価値が市場価値に依存し、多くの場合マージン・アグリーメントの対象となる取引。



## 2. 市中協議文書で提案されている内容

- 今回の市中協議文書では、開示の範囲が一部の項目に限定されているものの、バーゼル委は今後もモニタリングを続け、必要に応じて開示範囲の拡大を検討する可能性がある。
- また、ウィンドウ・ドレッシング行動を軽減するため、第1の柱対応が適切か否かについても検討を継続する。



### 3. 今後の予定

- 今回の市中協議文書に対するコメントは、2019年3月13日（水）までに以下の国際決済銀行（BIS）のウェブサイトに英文でご提出下さい。

<https://www.bis.org/bcbs/commentupload.htm?cdpath=/bcbs/publ/d456.htm>

- コメントは特段の断りが無い限り、全てBISのウェブサイトに掲載されます。
- 市中協議文書に関するコメントを踏まえ、さらなる分析が完了した後、結論を公表予定です。

(注) バーゼル委は、当該市中協議文書の全ての側面についてコメントを募集している。特に中銀預金の日次平残の開示を行うことが、銀行による中銀の資金供給ファシリティを利用する意思に影響を及ぼし得るか、または当該ファシリティの利用を不適切に明らかにしてしまうかについても意見を募集している。